

# 第6学年〇組 国語科学習指導案

平成24年〇月〇日 (〇) 第〇校時 指導者 〇〇小学校 〇〇〇〇

## 授業テーマ

宮沢賢治の本を並行読書したり、「やまなし」で好きな場面や叙述を意識して読んだりする学習をすることで、賢治の生き方や考え方に思いをめぐらし、気に入った作品を紹介ガイドブックに表現することができる授業

1 単元名 作品の世界を深く味わおう 「やまなし」

## 2 単元の目標

- 物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を知ったりしようとする。  
(関心・意欲・態度)
- 二つの場面を比べて読むことで、作品の特徴や作者の思いをとらえることができる。  
(読むこと)
- 複数の本や文章を比べて読んで、作者のものの見方や考え方について考えることができる。  
(読むこと)
- 造語の楽しさ、効果的な比喩表現や擬声語・擬態語、美しいリズムなど、語感や言葉の使い方に気付き、関心をもとうとする。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

## 3 単元設定の理由

### ○ 児童観

国語に関するアンケート(〇月)では、読書を好む児童が多い。図書室から本を借りる児童が多く、朝の読書活動で楽しく読んでいる。今回も並行読書で宮沢賢治シリーズの本に興味を持って読んでいる。「国語は好きか?」の項目では、好きな児童が多い反面、\*名の児童が少し嫌いと答えている。読書好きという学級の特徴を国語の授業に生かしていきれていないということであろう。「登場人物の心の動きや思っていることが分かるか?」では、分かる児童が多い傾向にあるものの苦手とする児童が\*名いた。叙述からイメージを膨らませることが大切になる単元であるので、一人学びや学び合いの時に、教師や友だちからの支援で気づくことができるよう配慮していきたい。「分かったことや思ったことを発表することができるか?」では、多くの児童ができると答えた。今まで学習リーダーを中心に班での話し合い活動を行ってきた成果だと考える。しかし、班で発言できても全体の前だと自信をもって発表できなくなってしまう児童が多いという面がある。「自分の考えをふくらませたり、自分の考えを修正したりできるか?」では、だいたいできると答えた児童が\*名であった。これも今までやってきた「一人学び-学び合い-振り返り」で身についたものであろう。自分で考えたものを班のメンバーで修正していく活動は何度も行ってきたが、ふくらませるといのが難しいのが実態である。修正はするものの結果的に深まった考えにならない時があるので、振り返りの部分での全体での練り上げを丁寧に行っている。

### ○ 教材観

本教材は、宮沢賢治の物語「やまなし」と資料として添えられた宮沢賢治の伝記「イーハトーブの夢」からなっている。

「やまなし」は、「二枚の青い幻灯」として写し出された「五月」「十二月」の2つの場面から構成されており、どちらも小さな谷川の底に棲むかにかの目を通して語られる世界である。この「二枚の幻灯」を通して、かにかの兄弟が恐怖や不安にさらされながらも、やがて静かで平和な生

の喜びに満ちた豊かな世界に浸る様子が、かのにの会話や美しい情景描写、比喩・擬声語・擬態語・造語の中で繊細に描かれている作品である。前半の「五月」は、明るい太陽の陽射しの中で生命が躍動する昼の谷川が舞台になっている。その中で弱肉強食の争いによって引き起こされる冷酷な死が、いわば現実を表す世界として描かれている。後半の「十二月」は、月光が水中に透き通る静かな夜の谷川が舞台になっている。全てのものが眠りにつく冷たい時期であるが、その中でかのにの親子のほのぼのとする温かいやりとりや、突然落ちてきたやまなしによってもたらされた幸せが、平和で豊かな理想的世界として描かれている。この「二つの幻灯」から「五月」と「十二月」の場面を、「動と静」「冷と暖」「死と生」「かわせみとやまなし」など、対比的な読みができるようになっている。

「イーハトーブの夢」は、宮沢賢治の世界に深く関わる筆者が、小学生向けに書き下ろした評伝である。この文章には、宮沢賢治が多くの災害を経験したことや農学校の教師であったこと、人間も動物も植物も心が通い合っているということを伝えたくて本を書き始めたことなど宮沢賢治の生き方や考え方を知ることができるものとなっている。

教科書では、「やまなし」のあとに資料「イーハトーブの夢」を学習するようになっているが、今回は「やまなし」の話を少しでもとらえやすくするため、資料「イーハトーブの夢」を先に学習するようにしたい。賢治の生き方や考え方に触れた上で、「やまなし」を読むことで、作品に込めた思いがとらえやすくなると考えるからである。

#### ○ 指導観

本単元は、「作品の世界を深く味わおう」という大きなねらいのもと、資料「イーハトーブの夢」で宮沢賢治の生き方・考え方に触れ、「やまなし」と重ね合わせ自分の考えを深めていく学習をしていく。そのため今回は<資料>「イーハトーブの夢」を先に学習する。また、並行読書を同時に進める。多くの作品にふれ宮沢賢治の作品の雰囲気を感じ取ることで、難解であろう文章を読む手助けになるものとする。

今回の単元を貫く言語活動の柱としては、宮沢賢治作品の紹介ガイドブック作りを行う。そのために、並行読書を朝読書の時間を活用して行っていく。ガイドブック作りのための基盤として、「本を選ぶ力」「好きなところを意識して読む力」「ストーリー全体を楽しむ力」が必要になってくる。そのような力を育成するためにも、本単元を活用していきたい。

単元を通しての指導の流れとしては、児童が主体的に学習に取り組み、課題に対する自分なりの考えがもてるように、「一人学び」の時間を確実に確保する。その際は、場面の様子を表現や叙述と関係づけて読み取ることができるように登場人物の会話や様子、音や色などの表現を大切に扱う。そして、根拠のある自分の考えをもてるようにする。その後、考えを深めるために、班（4～5人）での「学び合い」話し合い活動を行う。今回は、KJ法を用いての話し合い活動を行ってみたい。KJ法で自由に考えを述べる中で、より深まった考えに到達させていきたい。最後に「振り返り」として、各班から出た考えのキーワードを用いて、本時のまとめを書かせ、学習への達成感をもたせたい。

本時では、これまでの学習を振り返りながら、なぜ題名が「やまなし」なのかということについて話し合わせる。一人学びでは、「五月」や「十二月」の場面の情景の想起や、「かわせみ」と「やまなし」の比較、あるいは<資料>「イーハトーブの夢」や並行読書で学んだ宮沢賢治の生き方・考え方などから、めあてに対する自分の考えを付箋紙に書かせる。学び合いでは、その付箋紙を用いて、KJ法により話し合いを行わせる。その際には、学習リーダーに事前に本時の話し合いの進め方を伝え、話し合いがスムーズに進むようにする。付箋紙を貼った後、意見のグルーピングを行い、班の話し合いの結果を視覚的に分かりやすくしていく。そのグルーピングした結果をもとに更に話し合いを行い、班の考えをまとめ、紙に書かせ、黒板に貼るようにする。振り返りでは、各班から出た意見を集約し、キーワードを用いて、ノートに本時のまとめを書かせる。そうすることで、達成感を持たせると同時に、学習した内容を全員が振り返ることができるようにする。最後に学習カードに、KJ法で分かった点や話し合いで良かった点、友だちの考えで参考になった点などを記入させ、自己評価させる。

4 指導計画（総時数9時間 本時7/9）

次	時	学 習 活 動	関心意欲態度	読むこと	言語	評価規準	評価方法
一 次	1	「イーハトーブの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について感想を交流する。	○			作者の生き方や考え方を知り、感想を交流しようとしている。	付箋紙 発言
二 次	2	「やまなし」の題名と最初と最後の一文から想像したことを発表し、全文を音読する。 初発の感想を書いて交流する。	並行読書が位置付けられています。			自分なりに受ける印象を考え、初発の感想を書くことができる。	ノート
	3	情景描写やかにかにの会話から「五月」の世界を読み取り、想像画にまとめる。		○		情景描写やかにかにの会話から、想像画をかくことができる。	ワーク シート 学習 カード
	4	情景描写やかにかにの会話から、「五月」の場面でのかにかにの兄弟の心情を想像し、「五月」の場面を一文で表す。		○		かにかにの兄弟の心情を読み取り「五月は～な世界」と一文で表すことができる。	ワーク シート 学習 カード
	5	情景描写やかにかにの会話から「十二月」の世界を想像し、想像画にまとめる。		○		情景描写やかにかにの会話から、想像画をかくことができる。	ワーク シート 学習 カード
	6	情景描写やかにかにの会話から「十二月」の場面でのかにかにの兄弟の心情を想像し、「十二月」の場面を一文で表す。 「五月」と「十二月」を比較する。		○		かにかにの兄弟の心情を読み取り「十二月は～な世界」と一文で表すことができる。	ワーク シート 学習 カード
	7 本 時	「五月」と「十二月」を比べながら読み、題名がなぜやまなしになったのかを考え、意見を交流する。		○		「やまなし」が題名になった理由を考えることができる。	付箋紙 ノート 学習 カード
	三 次	8		並行読書をしてきた内容を生かして紹介ガイドブックを作る。		○	
9		紹介ガイドブック発表会を行い、多くの賢治作品にふれる。	○			多くの賢治作品の楽しさにふれようとしている。	ノート

単元を貫く具体的な言語活動が位置付けられています。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

◎ 作者が題名を「やまなし」とした理由について、本文の叙述や宮沢賢治の生き方、考え方からとらえることができる。

(2) 本時の手だて

<手だて1：一人学びの工夫>

○ 「イーハトーブの夢」や並行読書から宮沢賢治の生い立ちや考え方をあらかじめ学習しておくことで、「やまなし」が題名になった理由について考えることができるようにする。

<手だて2：学び合いの工夫>

○ 話し合いに KJ 法を取り入れ、発表が苦手な児童に配慮すると同時に、多様な考えを視覚的に分かりやすくまとめ、班の考えをはっきり提示することができるようにする。

<手だて3：振り返り、自己評価の工夫>

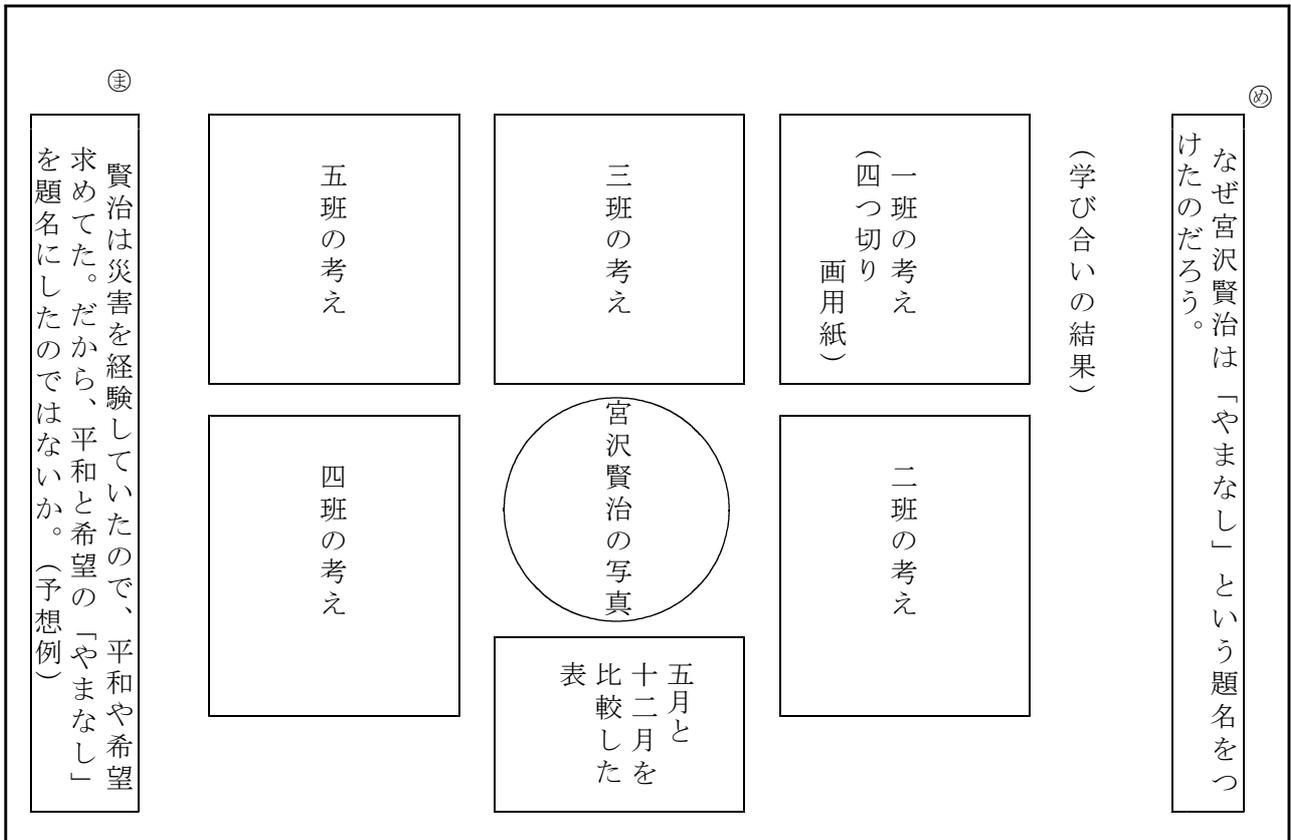
○ 各班から出た考えのキーワードを用いて、自分で本時のまとめを書くことができるようにする。

(3) 学習過程

段階	学習活動 ○主な発問・児童の予想される反応	時間	○指導上の留意点 ※評価	教師の支援
つかむ	1 前時までの学習を振り返る。  2 本時のめあてをつかむ。 ④ なぜ宮沢賢治は「やまなし」という題名をつけたのだろう。	5	○「五月」「十二月」の場面を掲示物を活用して振り返る。	
見通す	3 めあてに対する自分の考えをもつ。 (一人学び) ○ これまでの学習を思い出し、付箋紙に自分の考えを書いてみよう。 ・ 「やまなし」は、かにたちを喜ばせ幸せな気持ちにしたから。 ・ 自然の温かさや優しさを感じられるから。 ・ 賢治は自然が好きだから。 ・ 賢治が農学校の先生だったから。 ・ 災害などを体験している賢治は、「かわせみ」の恐怖より、「やまなし」の温かい幸せな感じを伝えたかったから。 <b>単元を通してKJ法による話し合いを取り入れています。</b>	10	「イーハトーブの夢」や並行読書から宮沢賢治の生い立ちや考え方をあらかじめ学習しておくことで、「やまなし」が題名になった理由について多面的に考えることができるようにする。 (手立て1)  ※ これまでの学習から根拠を見つけ出し、自分の考えを書くことができたか。(観察・付箋紙)	なかなか書けない児童には、これまでの学習を個別支援により想起させる。
深める	4 KJ法を用いての話し合いをする。 (学び合い) ○ 付箋紙を自分の考えを述べながら貼り、グルーピングして班としての意見をまとめよう。 ・ 「かわせみ」は恐怖、「やまなし」は平和や優しさを表している。災害や凶作などを経験した賢治の平和に生活したいという願いが「やまなし」には込められているから。  <b>グルーピングによって多様な考えが視覚的にも分かりやすくなります。</b>	15	話し合いに KJ 法を取り入れ、発表が苦手な児童に配慮すると同時に、多様な考えを視覚的に分かりやすくまとめ、班の考えをはっきり提示することができるようにする。 (手立て2)  ※ 自分の考えを進んで発表したり、友だちの考えを聞いたりして班の考えをまとめることができたか。(観察・KJ法シート)	班の話し合いをスムーズに活発に進めることができるように、学習リーダーに本時の話し合いの進め方をあらかじめ伝えておく。

<p>まとめる</p>	<p>5 各班の意見をまとめ、全体の考えとする。 (振り返り) (1) 各班の考えを集約することで、キーワードを考えまとめを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>㊦ 賢治は災害を経験していたので、平和や希望を求めてた。だから、平和と希望の「やまなし」を題名にしたのではないか。</p> </div> <p>(2) 学習カードを記入する。</p>	<p>1 5</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>振り返りで全体でキーワードを考え、教師が線を引く。</p> </div> <p>各班から出た考えのキーワードを用いて、自分で本時のまとめを書く。 <b>(手立て3)</b></p> <p>※ キーワードを用いて、本時のまとめを書くことかできたか。 (観察・ノート)</p> <p>○ 今日の学習内容の分かりやすかった点や疑問、また友だちの良かった発表などを記入させる。</p>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4) 板書計画



# 本時までの授業の実際

## 【第1時】

「イーハトーブの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について、KJ法を使って感想を交流した。



## 【第2時】

「やまなし」を読み、KJ法を使って初発の感想を交流した。



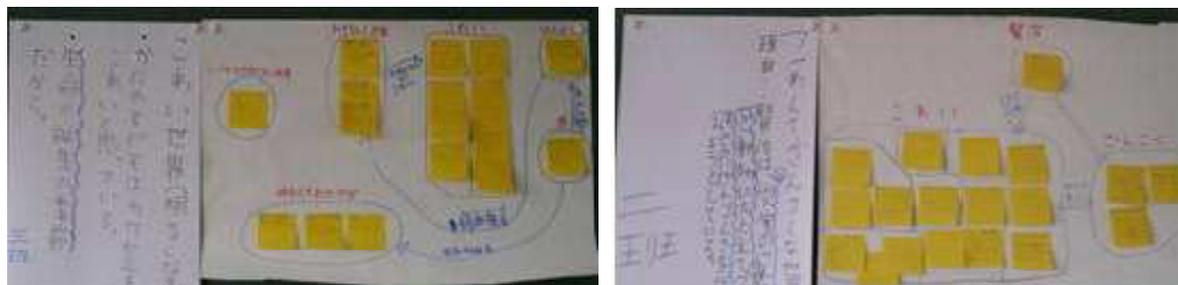
## 【第3時】

「五月」の世界を読み取り、想像画にまとめた。



## 【第4時】

「五月」の場面でかにの兄弟の心情を想像し、「五月」の場面を一文で表したものをKJ法を使って交流した。



【第5時】

「十二月」の世界を読み取り、想像画にまとめた。



【第6時】

「十二月」の場面でかこの兄弟の心情を想像し、「十二月」の場面を一文で表したものをKJ法を使って交流した。



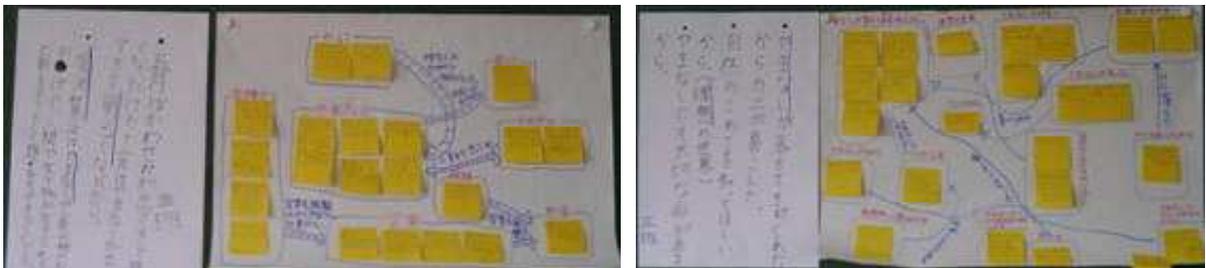
【第7時】 本時



<五月と十二月を比較した表>



<本時の板書 (左の表が黒板の下に貼付) >



<「なぜ『やまなし』という題名をつけたか。」をKJ法を使って交流した>



